



学校法人永原学園
さんこう
児童クラブ通信

令和8年4月発行
— 第1号 —

【三光幼稚園】

TEL:0952-31-0753
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL:090-7430-1312

新年度開始にあたって

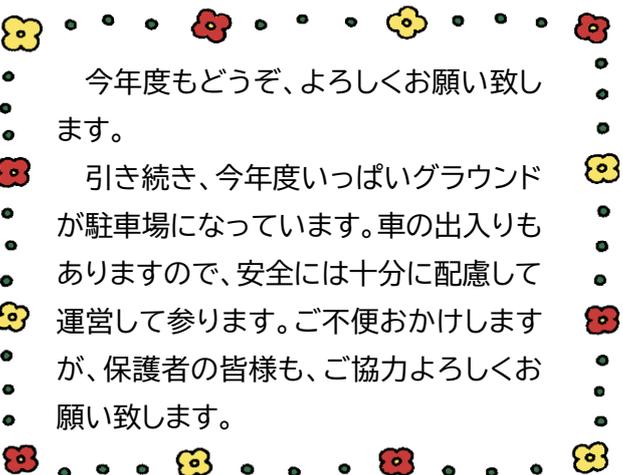
14人の子ども達との別れで少し寂しい気持ちになっていたところ、新しく18人の児童がさんこう児童クラブのメンバーとして加わりました。本クラブは30人定員となっていますので、4年生の枠を作ることができませんでした。小学生は学習面や体格、社会性など日々の成長が著しく、児童クラブに携わる職員も保護者様との連携が欠かせません。新しく入所された児童の保護者の皆様はじめ、進級された児童の保護者様も何かありましたら、どうぞ遠慮なくご相談下さい。

西九大佐賀キャンパスの教職員の方々もいろいろな面でサポートをして下さっております。お子様方をみんなで温かく見守りながらお迎えまでの時間を楽しく過ごしていきたいと思ひます。

一方、佐賀キャンパス新校舎建設のため、今年度いっぱいご迷惑をおかけしますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

私も時々様子を見に訪問する予定です。

三光幼稚園副園長



今年度もどうぞ、よろしくお願い致します。

引き続き、今年度いっぱいグラウンドが駐車場になっています。車の出入りもありますので、安全には十分に配慮して運営して参ります。ご不便おかけしますが、保護者の皆様も、ご協力よろしくお願い致します。

【★令和7年度お疲れ様会★】

3月26日(休)にお疲れ様会をしました！ビンゴ大会や特別なおやつ。以前、「みんなで取り組むってなんかいいね！」と児童のつぶやきがありました。児童にとっての刺激にも期待にも繋がってほしいと願っている職員の心にも届く素敵な言葉を伝えてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。8年度も楽しい催し物を児童共に創り上げていけたらと思います(*^-^*)



楽しく過ごそうね♪

令和8年度もみんな頑張ろうね！
これからもよろしく★



4月の目標

「クラブでの約束事や流れを知ろう」

安全に安心してクラブで過ごすことができるように一緒に確認していきます。児童と共に、楽しいクラブをつかっていきたいです★

4月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数
1年生	18	0	18	18
2年生	13	0	13	1
3年生	3	0	3	0
計	34	0	34	19

寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学の窓から

「楽しみにおもうココロを育む」

幼児保育学科 准教授 竹森裕高

皆さんは「やりたいこと」があつたり、「会いたい人」がいたりすると、どんな思いで日々を過ごしますか？

その出来事が待ち遠しかったり、ワクワクしたりして「楽しみ」で仕方ありません。

この「楽しみにおもう気持ち」は子どもの頃でも、大人になっても抱くことがある気持ちだと思います。

運動やスポーツに触れ、やりたくなるとやはり「楽しみ」になります。私は体を動かすことが好きで、これまでサッカー、野球、ハンドボールなど様々なスポーツを経験してきました。自分自身振り返ってみると、子どもの頃、幼稚園での体育活動や外遊びをはじめ、親や兄弟、友だちと一緒に遊んだ経験は体を動かすことが好きになるきっかけとなったのではないかと思います。小学校時代でも体育の授業だったり、友だちと昼休みや放課後にドッジボールやサッカーなどでよく遊び、そして、中学や高校でも部活などで運動やスポーツにたくさん触れ、社会人になった現在でも、機会があれば様々なスポーツ種目の大会に参加したりしています。

今でも運動を続けたり、様々なスポーツに関わったりしている理由を考えると、幼少期に「初めて運動すること」や「体を動かすこと」に触れた時の『楽しさ』や『面白さ』を味わったことがその後の私自身のスポーツ人生に影響を与え、これまで続けてきたことにつながっていると思います。

幼児期において、運動することに限らず、絵を描いたり、物を作ったり、音楽に触れたりと様々なことに会う時期です。出会ったときの『第一印象』はとても大事になります。

「次もやりたい!」、「まだやりたい!」と思えるときは、「活動を体験した楽しさ」や「お友だちと一緒に遊んだ楽しさ」といった楽しさを味わうことができた時ではないでしょうか。

色々な遊びに触れ、知ることは遊びを広げることであり、子どもたちは「楽しさ」を味わうようになります。そして楽しさを味わうと、子どもたちはその遊びを繰り返し体験する中で、自分たちで遊び方やルールを考え工夫し、子どもたち同士で遊びこみ、「楽しむ」ことができるようになります。そして、遊びを楽しむようになるとその遊びをやりたくてたまらなくなり「楽しみ」になり、ワクワクした気持ちが芽生えます。

このように「楽しさ」から「楽しむ」、そして、「楽しみ」といった変化は幼児期の子どもが多くのことに出会うこの時期においてはとても大事であり、「楽しみにおもうココロ」が育まれることにもつながります。

「楽しみにおもうココロ」を育むためにも、親子で色々な経験をとおして『楽しさ』を味わう機会をたくさん作ってみてみませんか。